

研究の目的・達成目標

- 豚熱感染野生イノシシを介した豚熱ウイルスの拡散防止対策を講じるため、野生イノシシに対し輸入経口ワクチンを散布している。
- 需要の増大に対しても安定的に供給できるよう体制を構築し、我が国の実態により即した**経口ワクチンを国内で開発**する。

主な研究内容

①ワクチン株の開発

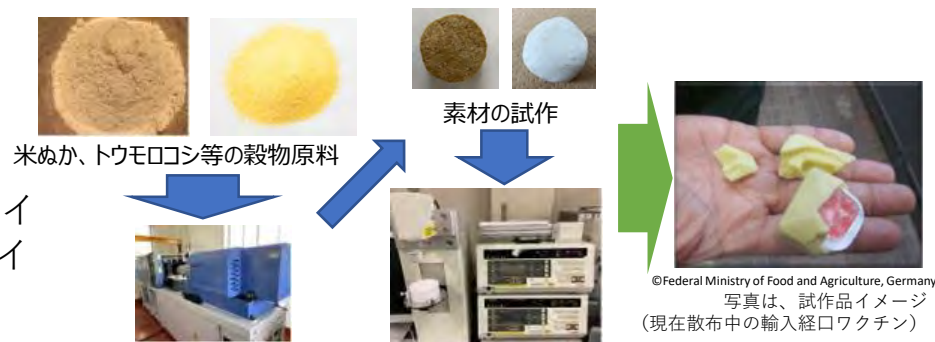
- ◆経口ワクチンとしての使用に適したワクチン製造用ウイルス株の作出及び経口ワクチンとして投与する際のウイルス量を検討 など

②国内での使用に適したベイト剤等の開発

- ◆国内のいのししが効率的に経口ワクチンを摂取するよう嗜好性に優れたベイト剤等を検討 など

③試作経口ワクチンの効果確認

- ◆上記で得られた知見に基づいて、経口ワクチンを試作、摂食した動物での効果を検証 など



ベイト素材の開発のイメージ



農研機構
NARO

イノシシの採食行動の予備試験

写真は、『農研機構生研支援センター「生産性革命に向けた革新的技術開発事業」のうち「スマート捕獲・スマートジビエ技術の確立」事業より提供

「関係省庁申合せ（2019年4月策定、同年12月改訂）」を策定し、関係省庁が一体となって、アフリカ豚熱侵入防止防止策に取り組んでいる。

（１）相手国から持ってこさせない

豚熱

アフリカ豚熱

- SNS、現地メディア、旅行代理店等を通じた**注意喚起、多言語動画**の配信
- 航空会社等への**情報提供、ポスター掲示・機内アナウンス**の依頼
- 外国の**検疫当局との連携**
 - ・ **中国海関総署**との間で、旅客の携帯品、郵便物の**検疫強化に関する協力覚書**に署名。



（２）日本に入れさせない

豚熱

アフリカ豚熱

- 検疫探知犬の増頭・家畜防疫官の増員

【検疫探知犬】

- ・ **2019年度当初33頭**
⇒ 2020年4月末53頭
⇒ 2020年12月末105頭
⇒ **2021年3月末140頭**

【家畜防疫官】

- ・ **2014年度～2019年度（5年間）で87名増員**
- ・ **2020年度には更に10名増員（合計491名）**

- 畜産物の**違法な持込みに対する対応の厳格化【2019年4月】**

- ・ **違反者情報をデータベース化し、関係省庁と共有して対応（逮捕事例（6件9名）あり）。**

- **税関と連携した検査の実施**

- ・ 肉製品の持込みに有無に関する質問が目立つよう、**税関申告書の様式を変更。**

〔国籍別：日本2名、ベトナム4名、タイ2名、台湾1名〕

（３）法改正等の対応

豚熱

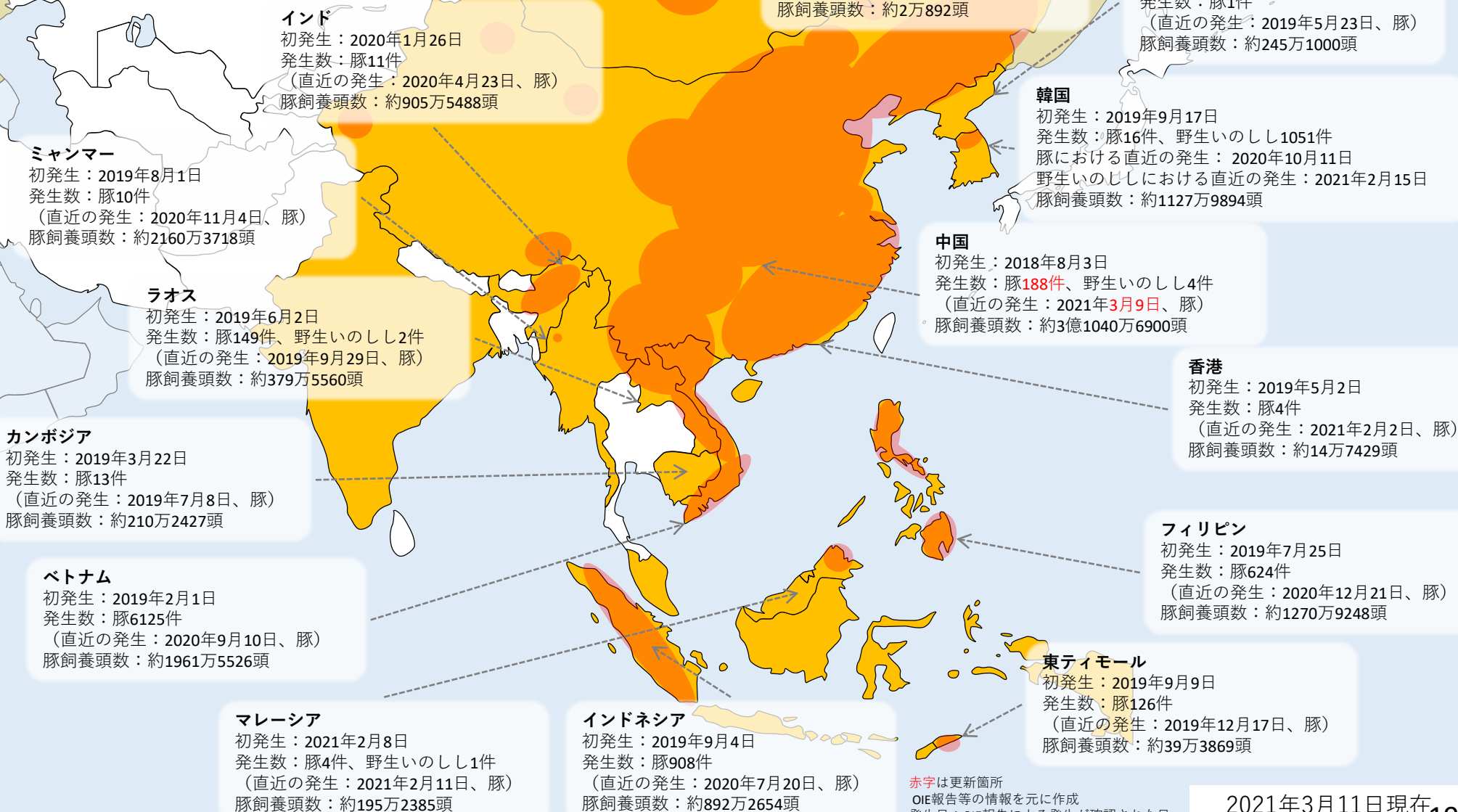
アフリカ豚熱

- **家畜防疫官の質問・検査権限、廃棄権限を措置、罰則強化等【2020年7月施行】**

アジアにおけるアフリカ豚熱の発生状況

■ : 2018年8月以降発生があった国、地域

● : 発生箇所



赤字は更新箇所
OIE報告等の情報を元に作成
発生日：OIE報告による発生が確認された日
飼養頭数：FAO統計(2019)による

2021年3月11日現在 19